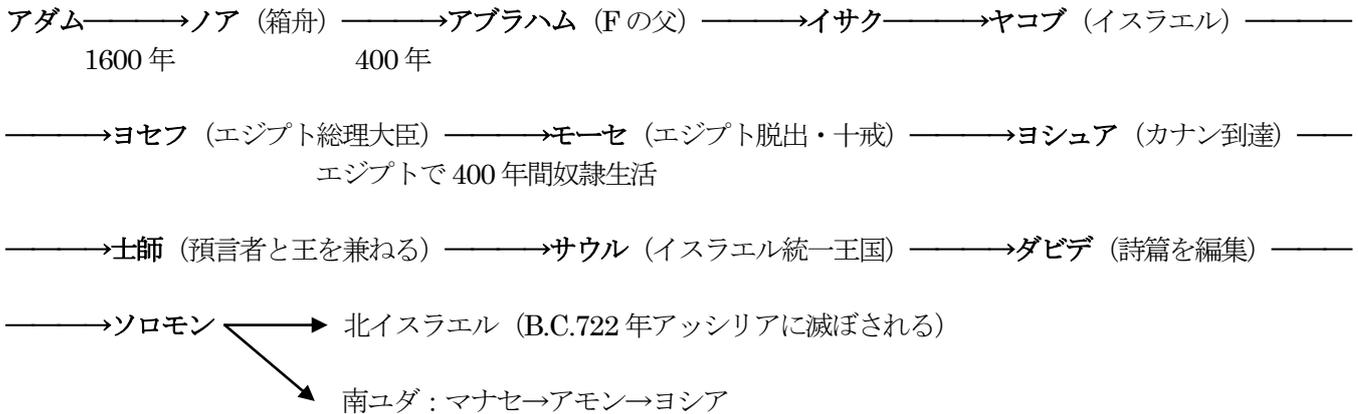


9. 無知の中の相克世界（ヨシア王の教訓）

〈歴代志下 34 : 1~2〉 p.645

ヨシア王は8歳でユダの国の王になった。



ヨシア王、ヨシュアと間違える人がいる。おじいさんはマナセ王、お父さんはアモン王。ダビデのような生き方をしたから、ダビデを父とした、と書かれている。

<マナセ王>

〈歴代志下 33 : 1~9〉 p.644

偶像を拝むという、神様をもっとも嫌うことをした。

<アモン王>

〈歴代志下 33 : 21~25〉 p.645

父マナセ王の死後王についたが、2年後に部下に殺されてその子ヨシアが王になった。

<ヨシア王>

ヨシア王は、自分は無力だったので、歴代の人物で誰が一番うまくやったのか調べ、ダビデを見つけた。そしてダビデがやったように神様を信じ始めたので、神様は何でもしてあげたくなった。

- ① 偶像崇拜の廃止 歴代志下 34 : 1~7 参照
- ② 神様の宮殿を再建 歴代志下 34 : 8~13 参照
- ③ 過越しの祭り (出エジプトの感謝祭) の復活 歴代志下 35 : 10~19 参照

イスラエル近辺の地図参照

ヨシア王は南ユダの王、北イスラエル、西にエジプト、東にカルケミシ (アッシリア) がいた。カルケミシがちょっとしかけてきていた。

〈歴代志下 35 : 20~24〉 p.649

エジプトの軍隊がユダに近づいたので、ヨシア王が出て行った。エジプト王ネコはカルケミシに攻めるためだといったが、ヨシア王は聞き入れず、戦って死んだ。ヨシア王は神様の考えがわからなかった。

〈イザヤ書 55 : 8~9〉 p.1025

わが思いは、あなたがたの思いとは異なり…とあるが、神様の考えは…

〈イザヤ書 19 : 19~25〉 p.967

のように、エジプトら3国をまとめたかった。

しかしヨシアは自分達の民族だけに神様は働くだろうと考えていた無知があった。この時代にはエレミヤ預言者がいたが相談しなかった。ヨシア王の3代前に神様を中心として成功したヒゼキア王がいたが、このときはイザヤ預言者がいた。

歴代志下 32 : 20~23

ヒゼキア王は神様が送ったイザヤ預言者と共に祈って、アッシリアを滅ぼした。

列王紀下 19 : 1~7

ヒゼキア王は神様が送ったイザヤ預言者に共に祈って答えを見出した。そして敵を打ち破った。また 20 : 1~7 に祈って病気を治した。しかしヨシア王は祈らなかつたし、エレミヤ預言者に相談しなかつた。祈って神様の本心を知らないといけないし、またより祈って神様に近い人に報告相談しないといけない。神様はエジプトを通してアッシリアを打ちたかった。天と相談したことは神様が責任を取ってくれるが、自分勝手にやったことについては責任をもたない。

マタイによる福音書 5 : 43~48

汝の敵を愛せよ。敵だとおもっていた人が助けることもある。いやなことを言う苦手な人もいるが、逆に仲のいい人はズバズバ言ってこない。敵だと思うのは自分の考え。自分が敵だと思っても神様が味方だと言ったら味方。

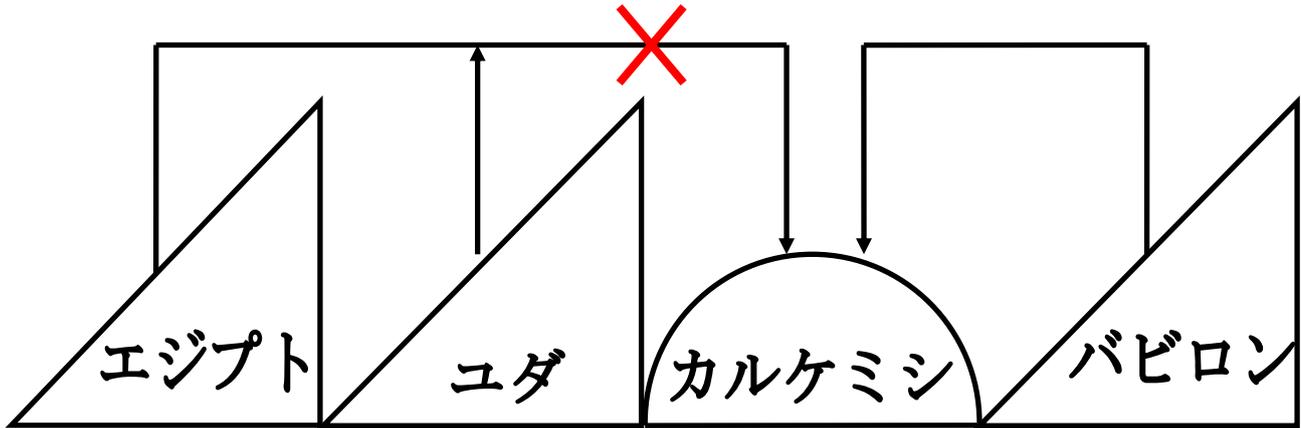
この聖句の本意は、あなたがた（律法学者ら）が敵だと思って憎んでいる私（イエス）を愛しなさい、という意味。

イザヤ書 53 : 1

思いがけない人から助けられる。

イザヤ書 46 : 11

神様の性格は、決めたら必ずやる。



第一の使命者	無知	対象	第二の使命者
モーセ	イスラエル	カナン	ヨシュア
イエス	ユダヤ人	ローマ	パウロ
ルター	キリスト教	カトリック	カルビン
イエス	人類	救い	再臨主

※「第一の使命者」は「対象」のために働きかけるが、「無知」な人々のせいで達成できず、神様は「第二の使命者」を送る。

マタイによる福音書 5 : 43~48

最後までなす神様。無知だったから神様の歴史を遅らせる。人生も自分が無知だったら自分の人生をおくらせる。

今の時代再臨主が来たとき、無知だと迎えられない。同じ過ちを繰り返してはいけない。

※最低祈りの大切さと神様を信じる中心者と相談の意識をつけさせるように。神様が人を通して働くから。神様を信じるだけでなく、どう働かれるのかを知らないといけない。

コリント人への第二の手紙 2 : 8

この知恵=イエスがキリストであるということ。無知によってユダヤ人はイエスを殺してしまった。無知だったから神様の歴史を遅らせる。人生も自分が無知だったら自分の人生をおくらせる。今の時代再臨主が来たとき、無知だと迎えられない。同じ過ちを繰り返してはいけない。